

# VOL.5 2019.8.15



INTERNAL NEWSLETTER  
JLBタイムズ

Interview

営業推進部 チーフ

## はまのだいち 濱野 大智

営業推進部の若きチーフ、濱野大智。2016年に株式会社日本土地建物へ入社して以来、着実に結果を残し、チームをまとめる役割も担う。現在の主な業務は、収益物件に関する情報収集や買い取り、付加価値を加えての販売など多岐にわたる。数字を求められる厳しい営業の世界で、濱野は何を経験し、どのような将来を描いているのか聞いた。

「様々な会社を訪れた中でも、日本土地建物は堅苦しい雰囲気がなく、風通しが良さそうな印象を受けました。何より、頑張った分だけ評価される制度は魅力的でしたね。絶対に結果を出して見せる。そう思って入社を決意しました」。

### 実力主義の世界へ

多くの大学生にとって、避けて通れないのが就職活動だ。濱野もまた、様々な選択肢を目の前にして、自分がどんな道に進むべきかを考えていた。

面接の時期を迎える、受けた会社は商社や不動産を始め、いくつかの業界にまたがっていた。だが、決して手あたり次第受けていたわけではない。濱野が軸としていたのは、出した成果がしっかりと評価されること。自分の力を正当に評価してくれる。

この仕事をしていると、様々な人や建物との出会いがある。全ての物件に思い入れがあり、新しい出会いは何よりもモチベーションを上げてくれる。

物件の仕入れは年に数回。紹介してくれる人ありきの業務なので、相手といかに信頼関係を築くかが重要だ。長い付き合いになるからこそ心がけていること、それ

### 日々の出会いに、誠意をもつて

多くの大学生にとって、避けて通れないのが就職活動だ。濱野もまた、様々な選択肢を目の前にして、自分がどんな道に進むべきかを考えていた。

面接の時期を迎える、受けた会社は商社や不動産を始め、いくつかの業界にまたがっていた。だが、決して手あたり次第受けていたわけではない。濱野が軸としていたのは、出した成果がしっかりと評価されること。自分の力を正当に評

は自分を飾らないことである。  
「『素の濱野大智』で勝負するようになります。ずっとお付き合いを続けていく方に対して自分を偽ったり、変に媚びへつらったりしても、意味がないと思っているので。腹を割って、適当なことはしないのが、私の流儀です」。

数字だけにこだわるのではなく、相手への誠意を忘れずに、正面から向き合う姿勢。これが若くしてチーフを任せられる理由なのだ。

### 同じものがない大変さ

同じ物件はこの世に二つとなる。それは素晴らしいものもあり、大変さもある。ある物件を扱った時、書類に間違いがないか何度も確認し、気を張りながら仕事をしていたはずが、ある条件を見落としていた。それが、建物がどの地区にあるのかということだった。

不動産に関する条例は地域によつて少しずつ異なる。そのため、不動産に関する条例は地域によつて少しずつ異なる。そのため、

### チームの潤滑油を 目指して

自らが抱えている業務のほか

に、最近では後輩を指導する機会が増えてきた。そんな濱野が目標としているのは、自らのキャパシティーを広げていくことだ。

今は契約などの業務が入ると、自分のことで精一杯になってしまっている。だが、自分に求められているのは、普段の仕事をこなすだけでなく、チーフとしてメンバーを上手に動かしていくこと

だ。だからこそ、いかに余裕を持って、会社や周りの状況を考えて行動できるかが鍵となる。

「自分は圧倒的に経験不足ですね。もっと色々な仕事に挑戦して、たくさん失敗することが必要です。失敗から新しい学びを得て引き出しを増やしていけば、よりスマートな立ち回りが可能になるはずだと考えています」。

なりたい自分にいつなれるのか、ゴールはまだ見えない。それでも高みを目指し、走り続ける濱野から、目が離せない。



### 企業情報

設立年：2003年8月  
商：32.2億円

※2019年4月時点

